

知財業務のパラダイムシフト：Claude Opus 4.8からFable 5への進化

特許実務におけるAIの役割は、同期的な「対話型アシスタント」から、数日間にわたるタスクを自律的に進行し、自己保証を繰り返す「非同期・自律型エージェント」へと変革を避けています。

同期型から非同期型へのパラダイムシフト (Claude Opus 4.8)



同期型・対話中心



人間による修正への依存



手動での用語統一が必要
トークン枯渇と文脈分断のリスク

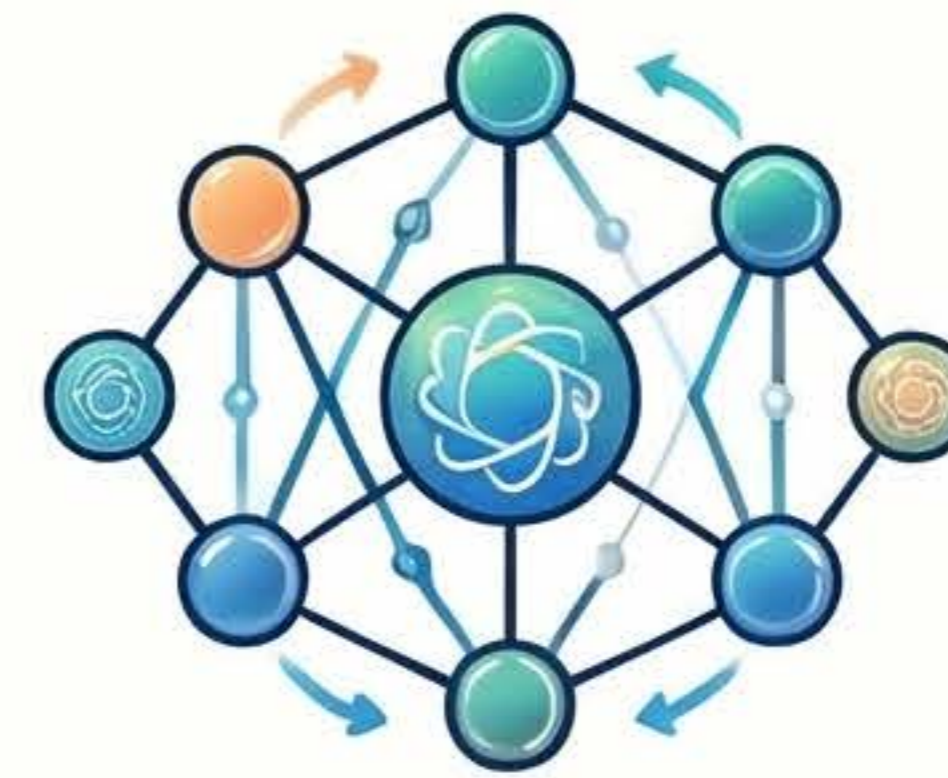


基本的な
マルチモーダル



自律型
エージェント
の誕生

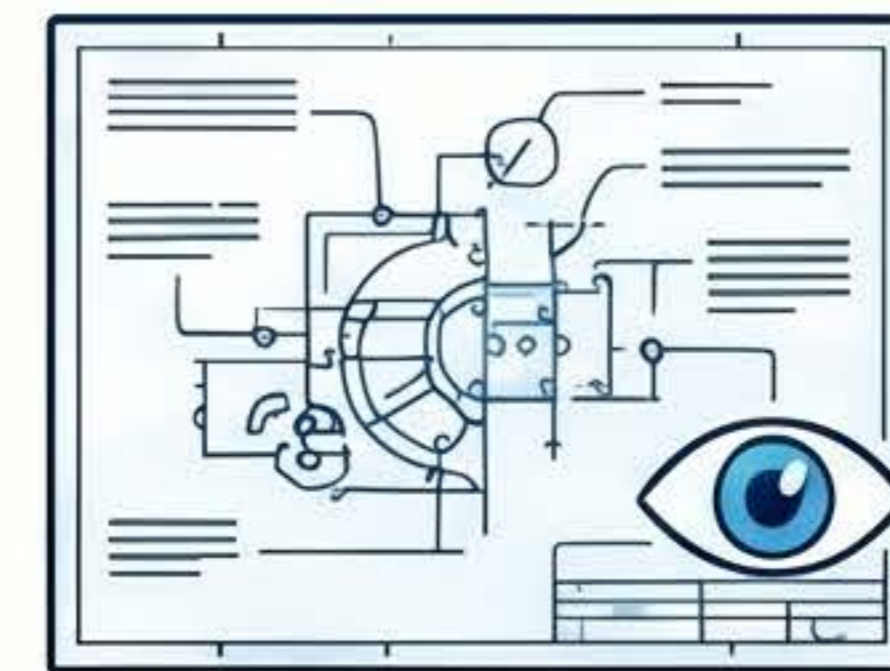
自律型エージェントによる革新的ワークフロー (Claude Fable 5)



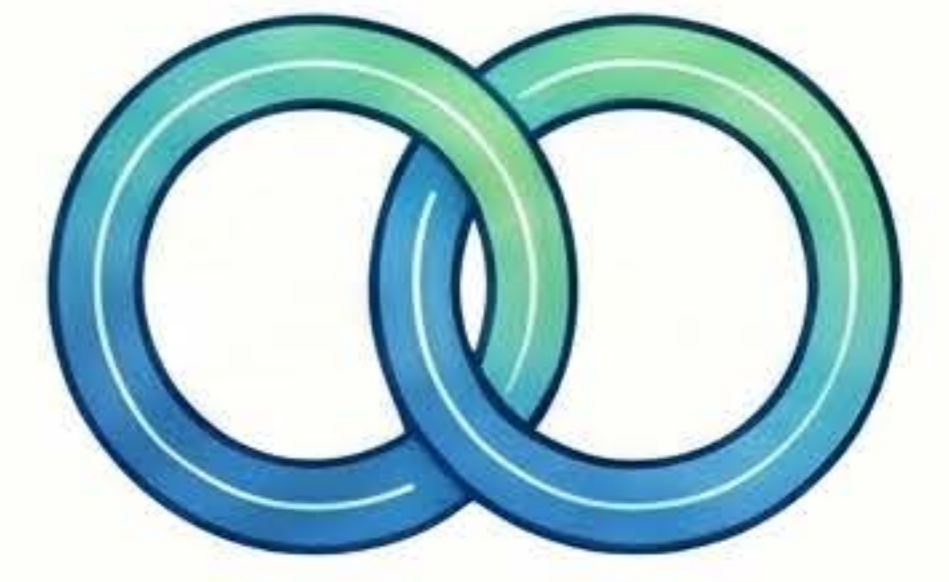
非同期型・自律エージェント



プロアクティブな整合性監査
自律的なテストコード作成と自己検証



複雑な図面の高精度解析
と自己評価



自己検証ループ (Agentic Box) の確立:
生成→図面照合→テスト→自動修正

数日間にわたる
長期実行と進捗管理

導入の課題と対策



30日間のデータ保持
ポリシーへの対応:
クラウド経由でのZDR
環境構築が必須



先端分野におけるフォール
バックのリスク:
バイオ・化学・サイバー領域
でのセーフガードと信頼され
たアクセス権

人的コストと役割の変革



人的コストの劇的な削減:
API利用料は2倍だが、人
的介入時間の大幅減で総合
的ROIは圧倒的に向上



弁理士の役割は「承認者」へ:
労働集約作業から解放さ
れ、AIが提示した最終案への
「戦略的レビュー」が主業務